

巻頭言

『国文学』一〇〇号を記念して

関西大学国文学会の機関誌『国文学』は、本号で一〇〇号となりました。一九五〇（昭和二五）年五月一日に第一号を発刊して以来、六五年を超えて継続して刊行されてきました。第一号の「編集後記」には、戦時中の国文学の反省ののち、「われわれは、国文学の研究を通じて学問の權威を確立し、豊かな人間性の息吹きを取戻すと共に、それによつて当來の文学や人間生活への何らかの寄与を為したいと念願するものである」と高らかに謳われています。未だ占領下であり、食糧事情もまだ十分ではなかったであろうこの当時の先人が示された高い志に感銘をうけるばかりです。その後、日本社会は順調に復興・経済成長をなしとげましたが、大学は学園紛争の嵐にさらされ荒廃した時期もありました。そのような厳しい環境のなかでも、『国文学』の刊行は（一号発刊できなかった年もありますが）継続され、幾多の困難を乗り越えて、今日の一〇〇号に至ったのです。その間の先人達のご苦勞・ご尽力に深甚なる謝意を表します。

『国文学』誌がここまで脈々と発刊され続けてきた事実が証しますように、国語国文学という学問分野は、社会的にも、あるいは若い学生諸君にも支持され続けております。文系の最も基礎となる研究分野であり、万代不易の学問です。われわれは、いま国語国文学の研究を通じて「学問の權威を確立し、豊かな人間性の息吹を取戻す」ことを、再認識すべきでしょう。

本誌を一〇〇号の長きにわたって守り立てて下さった諸先生・先輩諸兄・会員諸氏に衷心より御礼申し上げますと共に、今後ますますの發展を期したいと存じます。

二〇一六年二月

関西大学国文学会代表

山 本 卓